

令和4年度 自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	・職業人としての基礎的な力の育成（授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導） ・地域社会とつながりながら生きる力の育成 （地域・企業連携、自治的活動、啓発・広報活動） ・働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り（人材育成、時間外業務削減）
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 （ 1 ） 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価改善方策
職業人としての 基礎的な力の育 成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	・計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ・大規模な人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員一人一人の専門性や授業力の向上をねらった取組が必要である。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、授業展開や重点事項等について職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、専門性の向上をねらった研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。 （就労準備性チェックリストの実施）	○外部講師を招聘し、「対話的な言語活動」をテーマに校内研修会を行ったり、各研究グループでの年間2回の授業研究会を実施したりしたことで、教職員の授業改善への意識が高まった。 職員アンケートではほぼ9割の教職員が肯定的な回答をしている。 ○年に2回、授業シートを作成し、自分の実践を振り返るようにした。ねらいと活動のつながりを意識した授業実践が多く見られた。	A○今年度の成果と課題を基に方向性を検討し、引き続き「考える力」をつける授業づくりに取組む。 ○就労準備性チェックリストの集計と分析を行い、次年度の指導の重点項目を絞る。
		○前年度の生徒アンケートの「授業はわかるか」「授業は楽しいか」は、肯定的な回答が増加した一方で、「わかる」の上位回答が低下している。 ○「考える力をつける」授業づくりに取り組んだことにより、職員アンケートでは9割超の指導者が、意欲が育ちつつあると感じている。	○学習の基礎となる「学習のルール」を守り、自らが考え、学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「授業は楽しい」の回答が前年度と同程度を維持し、「授業がわかる」が増えている。	○「考える力」をつけるための授業改善を、教務部と研究研修担当が連携しながら取り組む。 ○より学習に集中して取り組めるよう、「学習のルール」の定着を図ったり、学習環境を整理したりする。 ○授業改善の取り組みを促進するため、後期に集中していた教科会を年間を通して実施できるようにする。	○「学習ルール」を守り、考え学ぶ意欲の育成について、教職員アンケートでは、「概ね達成」は7割、「変化の兆し」は2割の回答。9割超が肯定的に生徒の育ちを感じている。 ○生徒アンケートの「授業は楽しいか」は、前年度と同程度の肯定的な回答を維持し、「授業はわかるか」は、上位回答の「わかる」が増えた。	A○研究・研修担当と連携を図りながら、引き続き授業改善と「学習ルール」の定着に取り組む。 ○年間を通じて月1回の教科会を継続し、適切な授業目標や評価の検討、授業改善等を進める。
	○職業教育・進路指導の 充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の目標の共有が不十分である。また、人事異動に伴い、技術力等の継承が課題となっている。	○一般就労という目標を全職員が共有し、指導に当たっている。 ○各コースの技術等が継承されている。	○学科会や担当者全員で行うコース会の内容を再考する。 ○進路と連携し、研修等を行う。	○年度当初、専門教科についての職員研修を行い、一般就労という目標及び技術の継承についての意識づけを行った。各コース、それらを意識しながら日々の業務を行っている。 ○教員アンケートで一般就労という目標を全職員が共有し、指導に当たっているとの回答が7割以上だった。	B○今後も、一般就労という目標の意識づけと技術の継承を意識した日々の業務に、継続して取り組んでいく。
		○生徒一人一人の働くための課題について、専門教科の学習で解決しようとする意識に差が見られる。	○現場実習での生徒一人一人の課題をコース担当者及び生徒自身が理解し、専門教科の学習を行っている。	○生徒の課題について、指導する教員全員で共有することを促す。また、生徒が自分自身の課題を意識できる授業づくりについてコース会等で話し合う時間を確保する。	○コース担当者は、情報共有した現場実習での課題を理解し、指導にあっている。 ○生徒は、学習内で出てきた課題について理解し、意識しながら学習を行っている。その課題は、現場実習の課題ではないが、その積み重ねは働く力につながっている。	B○継続して、生徒が自分自身の課題を意識して学習できる環境づくりをしている。 ○実習後に情報共有した生徒の課題だけでなく、生徒自身が立てた目標の活用方法を考える。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	（1年生）自分の良さと課題を理解している。 （2年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 （3年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団と連携することでジョブマッチングが概ねできた。また、実習と授業の関連が深まるような仕組みを整えた。 ○生徒、職員のニーズを受けて行事や研修を行ったが、満足度はまだあげることができる。	B○現場実習と授業のつながりを意識して、引き続き学年団と進路部の連携に努める。 ○生徒、職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き行事や研修の内容を深めてキャリア教育の充実をはかる。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用している。 ○生じたトラブルについて、生徒だけで対応してしまうことで拡大・複雑化してしまうこともある。 ○SNSの使用時間や内容によって生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる。	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行うことにより、使用ルールの意識や再確認を促す。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。	○年度初めと冬季の2回、生徒・保護者で「我が家のルール」の作成や見直し・確認を行ったが、個々のルールへの意識は十分でない。 ○外部講師による講習会を実施し、具体的事例を基にSNSの利用等について考える場を設けた。	B○汎化しやすくするため、より具体的な事例や資料を活用した学習や指導に取り組む。 ○保護者との情報共有を進める。 ○外部講師による講演会を定期的に計画・実施していく。

		○学校生活アンケートで挨拶や返事、言葉遣いができていない、生活リズムが整っていない、学習ルールが守れていないと答えている生徒が2割程度いる。また、できていなくてもできていると答える生徒もあり、基本的生活習慣が十分に定着していない。 ○自己肯定感が低く、すぐにあきらめたり自らの課題に向けて具体的な行動に移せなかったりする生徒がいる。	○生徒が自分の生活や行動に課題意識を持ち、改善するために生活や学習の中で取り組んでいる。	○基本的生活習慣や規律を守ることがなぜ大切なのか、将来にどのようにつながるのか職員間で共通理解し、LHR等で随時指導する。 ○担任面談や学習の中で、生活や学習態度を振り返り、どうしたらよいのかを考える活動を設定する。 ○課題に向けて具体的な行動をスモールステップで一緒に考えたり、できるようになったことを確認したりする。	○各学年・学級での指導やアンケート結果の掲示等により、挨拶や返事については8割、言葉遣いについては9割の生徒が肯定的意見で答え、意識して取り組んでいる様子が伺える。 ○面談や学習の振り返り等を通して個々の課題を確認し、9割の生徒が目標や課題に向けて取り組んでいると回答している。 ○生徒は課題に意識して取り組んでいるが、教師側が求める「できている」姿とは一致していないものもある。	B	○挨拶、返事、言葉遣いは継続して指導し、定着に繋げていきたい。 ○求められる姿と現在の姿のズレが認識できるようにし、個々の課題や目標を明確にする。教師が「指導」と「支援」を区別し、その中で生徒自身がどのように行動していくのか考えられるようにする。
		○ブラッシング指導等、歯と口の健康に向けての取組後、歯の治療率が昨年度の30%から昨年度は50%に増えた。しかしながらまだ半数なので引き続き取組が必要である。	○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。	○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めていく。 ○保護者・地域との連携を強化していく。	○各学年の様々な教科で歯と口の健康に関する指導を行った。その中で治療を勧める声掛けができ、関心を示す言動がみられた。 ○保護者への治療勧告を進めたことで治療率が昨年度並みの半数まで上がった。	B	○歯と口の健康を社会人の身だしなみとして考えていくことができるよう、多方面からの働きかけを継続していく。
		○挨拶・掃除・整理整頓など、寄宿舎での基本的生活習慣が定着していない舎生が多い。	○基本的生活習慣が身に付き、定着している。 ○1年生はゴールドマイスター9割、2・3年生は生活の達人8割。	○マイスターチェック表を基に職員間で情報交換をしたり、舎生と面談をしたりして、定期的に振り返りを行う。	○定期的なチェック・面談で舎生の基本的生活習慣に関する意識継続ができ、苦手な部分を克服しようと努める舎生の姿が見られた。 ○1年生は全員ゴールドマイスター（途中入舎生は除く）、2、3年生（15名）は6割が生活の達人。急遽実習が入ったり、臨時休校になったりしたことで、マイスターチェックができないことがあり、生活の達人となる舎生数が見込みより少なくなった。	B	○マイスター制度の見直しも含めた新たな取組を検討中。チェックすること自体が目的とならないよう、「自分の得手不得手が分かり、必要な支援が何かを理解できるようになる」ということに重点を置く。
地域社会とつながりながら生きる力の育成	○学校運営協議会の活用（地域連携・企業連携の充実）	○昨年度、2回の会議を実施した。コロナ禍により、校外での学習等の実施が難しいことはあったが、その中で地域や企業との連携を図っていく視点で協議を行った。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受けながら、本校の教育活動の可能性を広げていく。	○コロナ禍の中でも、可能な地域や企業と連携した取組についての助言を受けながら、現在の状況でできる活動を推進していく。	○学校運営協議会での助言を活かし、コロナ禍に応じた対策をしながら、地域・企業との連携を図った。ことカフェ・地域での活動等に取組む機会が前期より増え、就労促進セミナーの実施・企業来校等を通して企業との連携を進めた。 ○Facebook・学校便り等で、学校・生徒の様子を継続して発信することができた。	B	○引き続き地域の方の来校や地域に出かけての活動等、地域と関わる取組を進める。 ○企業との日常的な連携や就労促進セミナー・企業来校等を通し、企業とのつながりをより図っていく。
		○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開が一度しか実施できなかった。 ○企業とのつながりをつくる工夫が不十分である。	○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。	○企業へ向けた情報発信やつながりの作り方を検討し、コロナ禍においても積極的に連携する。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。	○積極的に企業新規開拓をし、企業視察の呼びかけにも力を入れた。本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行うことで、現場実習の受け入れに繋がった。	B	○企業に対するアンケートを3年に1回実施し、定期的に企業のニーズを把握する。 ○企業との連携を進めるために、学校運営協議会で引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。
	○自治的活動の推進～生徒が考え行動する～	○学校生活に対して自分なりの考えを持っている生徒は多いが、自主的に発信しようとする意識が少ない面が見られる。	○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決するために考えている	○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。（自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。） ○生徒総会を、年間2回実施する。	○生徒会執行部として自覚を持ち、学校をよりよくするため、意欲的に話し合いに参加する姿が見られた。	A	○継続して、活動の目的や課題を確認しながら、生徒同士で意見を出し合えるよう計画的に話し合う機会を設ける。 ○自治的活動に関心を持ち、意識を高められるような取組を工夫する。
		○寄宿舎でのサークル活動があまり活発ではなく、活動するときも寄宿舎職員が主導して行うことが多い。	○舎生が主体的にサークル活動を計画・運営し、どのサークルも月1回程度は活動を行う。	○サークルの結成から舎生自らが行うようにする。サークル結成後はサークル顧問が助言をしながら、舎生が主体的に活動を計画・運営するようにする。サークル活動費の請求も舎生が行い、サークル運営に関して責任を持たせる。	○サークル結成および結成当初は生徒が主体となって積極的に活動することができた。活動を年間通じて継続するにあたっては、生徒だけでは活動日・活動内容を決めることができない場合もあり、職員の声かけが必要であった。それでも3つのサークルがすべてメンバーを減らすことなく、最後までほぼ月1回程度の活動をすることができた。	A	○同じ内容の活動を同じメンバーで高いモチベーションをもって1年続けることはなかなか難しい。また実習等で生徒がそろわない期間も多く、活動継続の壁となっている。サークルを半期で変える、単発で様々な活動を行う、などの方策を考えてもよい。

		○例年に比べ、部活動に参加する生徒が減少している。 ○部活動で運動したり文化活動をしたりしたいと考える生徒も一定数いる。 ○コロナ禍で、イベントや大会が中止となったり、休日や余暇活動として活動できる場が少なくなったりしている。	○休日や余暇の時間に、運動をしたり文化活動をしたりする生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部長会の活性化を進め、生徒が主体的に活動できるようにする。 ○生徒の活動場面や大会参加状況について情報発信を行う。（ホームページ・Facebook） ○地域のスポーツクラブや文化活動を紹介するとともに、参加生徒から楽しさを伝えられるようにする。	○いろいろな大会に参加できるようになり、生徒たちが自主的に取組んでいる。 ○ユニバーサルスポーツセンター主催のイベントに参加する生徒が増えた。 ○陸上部、琴の浦クラブからの全国大会入賞やダンス部の日本女性会議出演依頼など、知名度は広がりがつつある。 ○校外での活動環境がなかなか整わず、参加できる場は少ない。	B	○広報活動をしっかり行い、イベントへの参加を促す。 ○部活動の持つ意義について、生徒や職員で共通理解をする。 ○就労に必要な「継続する力」や「自律力」を高める取組を継続して行う。
働きやすい職場・一人一人が成長できる組織作り	○啓発・広報活動の工夫（保護者、地域住民、小中学校、企業等）	○コロナ禍により、対面による啓発・広報活動が縮小を余儀なくされている。	○Facebookや学校ホームページ、学校だより等の様々な媒体で、地域や企業、入学を検討している生徒に対し、学校の啓発・広報活動が進められている。	○定期的な記事と変化のある記事を混ぜながら、必要な情報が盛り込まれている学校ホームページを更新していく。 ○Facebook担当を校務分掌の中に位置づけ、進路部、寄宿舎と連携しながら更新していく。 ○日々のより詳しい学校生活や寄宿舎生活の様子を伝えるために、ログインページをより充実させる。 ○感染症対策を徹底したうえで、できる最大限の公開方法で、地域や学校への発信や受け入れを積極的に進めていく。	○コンテンツの内容や配置などを最新のものに更新した。 ○Facebookについても新しい視点で更新がされている。 ○ログインページについても学校生活や寄宿舎生活の様子がわかるように更新できている。 ○感染症対策を徹底し、個別の学校説明や見学対応を行うことができた。	B	○今後も学校の魅力が伝わる内容を意識して、学校ホームページやFacebookを随時更新していく。 ○今後の感染症の流行状況を見ながら、地域や学校への公開や広報活動を拡大していく方向で進めていく。
		○実際に教育の成果を知ってもらう機会が少なくなっており、職業的・社会的自立を見据えた進路選択につなげていけるだけの情報が、地域の学校に十分に伝わっていない。	○「琴の浦の教育」について発信したり、地域の関心や疑問に応えたりするための工夫ができている。	○参加型の啓発・広報活動の場合は、規模や方法を工夫し実施する。 ○地域支援活動について各学校へ周知を図るため、県や地教委と連携する。 ○地域の教職員を対象とした情報発信の場を企画・実施する。	○時間差、小グループ編成による学校見学と説明の実施。 ○感染症拡大防止の観点から、オープンスクールの分散型実施。（計3回） ○県と連携し、地域に向けた本校の教育と、卒後の職業生活についての情報提供の実施。	A	○将来の職業生活と本校の教育についてより関心を持ってもらうための工夫。 ・学校見学 ・生徒主体の情報提供の場等 ○オープンスクールの継続実施。 ○県と連携し、地域へのPR活動の実施。
働きやすい職場・一人一人が成長できる組織作り	○校内組織の改編、校内研修・授業研究の工夫（人材育成、時間外業務縮減・業務改善等）	○昨年度は時間外業務が年間360時間を超える職員はいなかったが、個々の差は見られる。	○引き続き、業務改善を図り、時間外業務を縮減する。（月45時間・年間360時間内）	○衛生委員会において、個々の業務・健康状況の確認や業務内容等の検討を行い、状況に応じて適宜声かけ等を行う。 ○各分掌や分掌間での業務の見直しや分担を図る。	○定期的に衛生委員会で個々の時間外業務の状況や取組の確認・検討を行うことができた。 ○月毎・年間を見通した業務の仕方の工夫や分掌業務の分担等を行いながら縮減を図った。	B	○継続して衛生委員会で時間外業務等の状況を確認し、年間を見通して業務の進め方等を工夫し、時間外業務の縮減につなげる。 ○各行事・活動等の計画・実施について、ねらいや状況に応じて見直しを行い、業務改善を図る。
		支援部・教務部（再掲）					

評価基準 A:十分達成 [100%] B: 概ね達成 [80%] C: 変化の兆し [60%] D: まだ不十分 [40%] E: 目標・方策の見直し [30%]